

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文	2	普通 コース	2	国語科

使用教科書等	出版社
標準現代文B	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に使われている優れた表現を自分のものとする。</li> <li>基礎学力を向上を向上するためにも漢字学習を中心に読み書きができるようにする。</li> </ul>
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の流れを理解し、現代文の鑑賞力を高める。</li> <li>基本的な漢字の読み書きができるように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の提出</li> <li>授業態度</li> </ul>
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	「私」という「自分」 鷲沢萌
	5	中間考査 調律師のるみ子さん いしいしんじ 新しい地球観 毛利衛
	6	
	7	期末考査
第2学期	8	そこにひとつの席が 黒田三郎
	9	永訣の朝 宮沢賢治
	10	情けは人の・・・ 俵万智 中間考査
	11	ナイン 井上ひさし
第3学期	1	期末考査
	2	
	1	鼻 芥川竜之介
	2	期末考査
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
古典	2	普通 コース	2	国語科

高等学校 標準古典A	出版社 第一学習社
------------	--------------

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	・古典を通して先人の物事に対する考え、教訓などを学ぶ。
---------	-----------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	・平常授業に対する理解。	・ノートの取り方 ・提出物(ノート・宿題・自習課題) ・読みテスト ・授業態度
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	〈古文〉『古今著聞集』「小式部内侍が大江山の歌の事」 〈古文〉『竹取物語』「火鼠の皮衣」 【中間考査】
	五・六	〈古文〉『竹取物語』「火鼠の皮衣」 〈古文〉『伊勢物語』「初冠」 【期末考査】
第2学期	七・八・九	〈漢文〉『孟子』「助長」 『唐詩紀事』「推敲」 【中間考査】
	十・十一	〈古文〉『大和物語』「姨捨」 【期末考査】
第3学期	十二・一	〈古文〉『方丈記』「ゆく川の流れ」 〈漢文〉『歴代名画記』画竜点睛 【期末考査】
	二・三	期末考査の復習

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文B	2	進学文系 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
精選現代文B	東京書籍

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な読み書きができること。</li> <li>・多くの文章に触れることで、言語文化に対する関心を高め、豊かな社会生活を送る態度を身に付ける。</li> </ul>
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業を通して学んだことや文学史の定着度を、考査を実施して評価する。	板書、課題プリントをきちんとノートにまとめ、提出していること。 発問事項に対応できること。 ノート等の提出物や授業・グループワークに対する積極的な態度等で評価する。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	ミロのヴィーナス 【中間考査】
	五・六	山月記 相手依存の自己規定 【期末考査】
第2学期	七・九	詩歌 消費されるスポーツ 【中間考査】
	十・十二	蠅 日本人の美意識 【期末考査】
第3学期	十二・二・三	「である」と「する」こと こころ 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
古典B	2	進学文系 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
新編 古典B	大修館書店

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2. 古典の読解力を身につけるとともに、日本の伝統・文化への知識を深める。 3. 古典作品を通して、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本重要古語、古典文法の習得</li> <li>内容理解</li> <li>適切な解答文の作成</li> <li>文学史の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物(宿題、自習課題)</li> <li>ノートを取り方</li> <li>小テスト</li> <li>授業態度</li> </ul>
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	〈古文〉『今昔物語集』 安倍晴明 〈古文〉『御伽草子』一寸法師 【中間考査】
	五・六	〈古文〉『竹取物語』 かぐや姫の昇天 〈漢文〉『故事成語』 朝三暮四 【期末考査】
第2学期	七・八・九	〈漢文〉『故事成語』 蛇足 〈古文〉『方丈記』 行く河の流れ 【中間考査】
	十・十一	〈古文〉『伊勢物語』 初冠 あづま下り 〈漢文〉『史記』 鴻門の会 四面楚歌 【期末考査】
第3学期	十二・一	〈古文〉『土佐日記』 門出
	二・三	〈古文〉『更級日記』 あこがれ 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文B	2	進学理系 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
精選現代文B	東京書籍

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な読み書きができること。</li> <li>・多くの文章に触れることで、言語文化に対する関心を高め、豊かな社会生活を送る態度を身に付ける。</li> </ul>
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業を通して学んだことや文学史の定着度を、考査を実施して評価する。	板書、課題プリントをきちんとノートにまとめ、提出していること。 発問事項に対応できること。 ノート等の提出物や授業・グループワークに対する積極的な態度等で評価する。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	ミロのヴィーナス 【中間考査】
	五・六	山月記 相手依存の自己規定 【期末考査】
第2学期	七・九	詩歌 消費されるスポーツ 【中間考査】
	十・十二	蠅 日本人の美意識 【期末考査】
第3学期	十二・二・三	「である」と「する」こと こころ 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
古典B	2	進学理系 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
新編 古典B 改訂版	大修館書店

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 2. 古典の読解力を身につけるとともに、日本の伝統・文化への知識を深める。 3. 古典作品を通して、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本重要古語、古典文法の習得</li> <li>内容理解</li> <li>適切な解答文の作成</li> <li>文学史の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物(宿題、自習課題)</li> <li>ノートを取り方</li> <li>小テスト</li> <li>授業態度</li> </ul>
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	〈古文〉『今昔物語集』 安倍晴明 【中間考査】
	五・六	〈古文〉『竹取物語』 かぐや姫の昇天 〈漢文〉『故事成語』 朝三暮四 【期末考査】
第2学期	七・八・九	〈漢文〉『故事成語』 蛇足 〈古文〉『方丈記』 行く河の流れ 【中間考査】
	十・十一	〈古文〉『伊勢物語』 初冠 あづま下り 〈漢文〉『史記』 鴻門の会 四面楚歌 【期末考査】
第3学期	十二・一	〈古文〉『土佐日記』 門出
	二・三	〈古文〉『更級日記』 あこがれ 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文B	2	特進文系 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
精選 現代文B	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにする。 2. 評論を読解し、論理の展開や要旨を的確にとらえる力を身につける。 3. 小説を読解し、登場人物の生き方や心情の推移を的確に把握し、感性を養う。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字・語句の習得</li> <li>内容理解</li> <li>適切な解答文の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物(宿題、自習課題)</li> <li>ノートを取り方</li> <li>小テスト</li> <li>授業態度</li> </ul>
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	〈評論〉 世界をつくり替えるために 〈評論〉 ミロのヴィーナス 【中間考査】
	五・六	〈小説〉 山月記 【期末考査】
第2学期	七・九	〈評論〉 相手依存の自己規定 〈詩歌〉 永訣の朝 【中間考査】
	十・十一	〈小説〉 ころも 【期末考査】
第3学期	十二・一	〈評論〉 「である」ことと「する」こと
	二・三	〈評論〉 「日本人の美意識」 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
古典B	2	特進文系 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
精選 古典B 改訂版	大修館書店

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 古典における基本事項(語句・文法)の習得。 2. 古典の読解力を身につけると共に、日本の伝統・文化への知識を修得し、理解を深める。
---------	-------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本重要古語、古典文法の習得</li> <li>内容理解</li> <li>適切な解答文の作成</li> <li>文学史の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物</li> <li>ノートの取り方</li> <li>単語テスト</li> <li>授業態度</li> </ul>
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	<古文>『枕草子』(随筆) <漢文>「故事成語」 <b>【中間考査】</b>
	五・六	<漢文>「故事成語」 <古文>『徒然草』『方丈記』(随筆) <b>【期末考査】</b>
第2学期	七・八・九	<古文>『伊勢物語』(物語) <漢文>「漢詩」 <b>【中間考査】</b>
	十・十一	<古文>『大鏡』(物語)『更級日記』(日記) <漢文>『史記』 <b>【期末考査】</b>
第3学期	十二・一	<古文>『源氏物語』(物語) <漢文>「小説」
	二・三	<b>【期末考査】</b> 演習問題



科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代文B	2	特進理系 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
精選現代文B	東京書籍

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な読み書きができること。</li> <li>・多くの文章に触れることで、言語文化に対する関心を高め、豊かな社会生活を送る態度を身に付ける。</li> </ul>
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業を通して学んだことや文学史の定着度を、考査を実施して評価する。	板書、課題プリントをきちんとノートにまとめ、提出していること。 発問事項に対応できること。 ノート等の提出物や授業・グループワークに対する積極的な態度等で評価する。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	ミロのヴィーナス 【中間考査】
	五・六	山月記 相手依存の自己規定 【期末考査】
第2学期	七・九	詩歌 消費されるスポーツ 【中間考査】
	十・十二	蠅 日本人の美意識 【期末考査】
第3学期	十二・二・三	「である」と「する」こと こころ 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
古典B	2	特進理系 コース	3	国語科

使用教科書等	出版社
精選 古典B	大修館書店

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	1. 古典における基本事項(語句・文法)の習得。 2. 古典の読解力を身につけると共に、日本の伝統・文化への知識を修得し、理解を深める。
---------	-------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本重要古語、古典文法の習得</li> <li>内容理解</li> <li>適切な解答文の作成</li> <li>文学史の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物</li> <li>ノートの取り方</li> <li>単語テスト</li> <li>授業態度</li> </ul>
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四・五	<古文>『宇治拾遺物語』『十訓抄』(説話) <漢文>「故事成語」 <b>【中間考査】</b>
	五・六	<漢文>『史記』 <古文>『徒然草』『方丈記』(随筆) <b>【期末考査】</b>
第2学期	七・八・九	<古文>『竹取物語』『伊勢物語』(物語) <漢文>「漢詩」「桃花源記」(文章) <b>【中間考査】</b>
	十・十一	<古文>『大鏡』『平家物語』(物語) <漢文>『史記』 <b>【期末考査】</b>
第3学期	十二・一	<古文>『源氏物語』(物語) <漢文>「小説」
	二・三	<b>【期末考査】</b> 演習問題

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史B	2	普通 コース	4	地歴科

使用教科書等	出版社
高校世界史	山川出版社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	世界の基礎的な歴史を学び、それぞれの時代の特色について理解を深め、現代社会の成り立ちを考える。
---------	-------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、定期考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度、ノートや課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	序章 先史の時代 第Ⅰ部 第1章 オリентと地中海世界 中間考査
	5 7	第1章 オリентと地中海世界 期末考査
第2学期	7 10	第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 東アジア世界／内陸アジア世界の形成と発展 第4章 内陸アジア世界の動向と諸地域世界 中間考査
	1 2	第Ⅱ部 第9章 近代ヨーロッパの成立 第10章 ヨーロッパ主権国家体制の展開 第11章 欧米における近代社会の成長 期末考査
第3学期	1 3	第8章 アジア諸地域の繁栄 第13章 アジア諸地域の動揺
	1 3	第14章 帝国主義とアジアの民族運動 第Ⅲ部 第15章 二つの世界大戦 期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史B	2	進学文系 コース	4	地歴公民

使用教科書等	出版社
詳説 世界史B	山川出版社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	世界史の大きな流れと地域ごとの関連を理解させ、それが現代社会にどのような影響を与え、またどのように発展してきたかを考察・理解させる。今後ますます国際化していく現代に生きる社会人としての基本的な教養・態度を身につけさせる。
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	基本的な歴史事項はもとより、入試や模擬試験にも対応できるような歴史的理解を確認する。また単なる用語の暗記にとどまらず、それぞれの単元の主題がとらえられているか確認する。 中間・期末考査を行う。	普段の授業態度・提出物等で評価する。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四 五	序章 先史の世界 第1章 オリエンと地中海世界 【中間考査】
	五 六	第2章 アジア・アメリカの古代文明 【期末考査】
第2学期	七 九	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 第4章 イスラーム世界の形成と発展 【中間考査】
	十 十一	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 【期末考査】
第3学期	十二 二	第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開  【学年末考査】
	三	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史B	2	進学文系 コース	4	地理歴史

使用教科書等	出版社
詳説 日本史 日本史B	山川出版社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	我が国の歴史の展開を総合的に考察させ、日本の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる資質を養う。
---------	---------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に定期考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度、ノート・課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの  【中間考査】
	5 6 7	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成  【期末考査】
第2学期	8 9 10	第3章 貴族政治と国風文化 第4章 中世社会の成立  【中間考査】
	1 0 1 2	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成長  【期末考査】
第3学期	1 2 3	第5章 武家社会の成長  第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開  【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史A	2	進学文系・理系 コース	2	地歴科

使用教科書等	出版社
改訂版 要説 世界史	山川出版社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会の成り立ちを理解することが目標であり、近代史を中心に世界各地の相互関連を学ぶ。 各民族の特質を理解するための文化圏についても学んでいく。
---------	-----------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度(表現力)、小テストや作業の様子、また課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第5章 ①帝国主義の成立と列強の情勢
	5	
	6	②世界分割とアジア・アフリカ ③二つの世界大戦とその影響
第2学期	7	第6章 三つの世界の形成
	8	①冷戦期の世界と日本 ②アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題
	9	
	10	③米ソ両大国の動揺
	11	第7章 グローバル化する世界 ①大国の動揺と国際経済の危機
第3学期	12	②社会主義の後退と冷戦の終結
	1	
	2	③グローバル化と多極化

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史 A	2	進学文系・理系 コース	2	地歴

使用教科書等	出版社
日本史 A 現代からの歴史	山川出版社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代史を理解し、今日の日本の基盤を考察する。</li> <li>裏話やエピソードを交えて興味や関心を持たせる。</li> <li>時代背景を考えさせる。</li> </ul>
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物や出席状況、学習状況</li> <li>ノートの取り方、創意工夫</li> </ul>
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1章 国際環境の変化と明治維新</li> <li>1. 19世紀世界の動向と日本</li> </ul>
	5	
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 開国と倒幕</li> </ul>
	6	
		期末考査
第2学期	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 開国と倒幕</li> <li>3. 明治新政府の諸改革と社会の変化</li> </ul>
	10	
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>4. 明治初期の外交と反政府運動</li> </ul>
	11	
		期末考査
第3学期	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2章近代国家の成立と国際関係の推移</li> <li>1. 自由民権運動の展開</li> <li>2. 立憲体制の成立</li> </ul>
	2	
	3	
		期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史B	2	特進文系 コース	4	地歴科

使用教科書等	出版社
改訂版 詳説 世界史	山川出版社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	世界の歴史の大きな流れと地域ごとの関連を理解し、文化の多様性と現代世界の形成過程を広い視野から考察することによって、歴史意識と歴史的思考力を培い、主体的に国際社会に関わっていく態度を養う。
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度、復習テストや課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	序章 先史の世界 第Ⅰ部 第1章 オリエントと地中海世界
	5	中間考査 第1章 オリエントと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明
	6	期末考査
	7	第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成
	8	中間考査
	9	第Ⅱ部 第4章 イスラーム世界の形成と発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 期末考査
第2学期	1	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開
	2	第Ⅲ部 第7章 アジア地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成
	1	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立
	2	期末考査
	2	期末考査



科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史B	2	特進文系 コース	4	地理歴史

使用教科書等	出版社
詳説 日本史 日本史B	山川出版社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	我が国の歴史の展開を総合的に考察させ、日本の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる資質を養う。
---------	---------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に定期考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の出席状況や学習態度、ノート・課題等の提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの  【中間考査】
	5 7	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成  【期末考査】
第2学期	8 10	第3章 貴族政治と国風文化 第4章 中世社会の成立  【中間考査】
	10 12	第2部 中世 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成立  【期末考査】
第3学期	1	第5章 武家社会の成立  【中間考査】
	2 3	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開  【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
世界史A	2	特進文系・理系 コース	2	地理歴史

使用教科書等	出版社
要説 世界史	山川出版社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	世界史の大きな枠組みと展開を理解させることを主眼とする。各地の歴史的な背景が、その後の文化の多様性・複合性に及ぼした影響をとらえた上で、現代社会にどのようにつながっているかという歴史的思考力を身につけさせる。
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	基本的な歴史的事項はもとより、1つ1つの事項の背景に何があるのかを問う。また単なる用語の理解だけではなく、それぞれの単元の主題をとらえることができているかどうかを確認する。中間・期末考査を行う。	普段の授業態度・提出物等で評価する。
評価割合		20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	四 五	第1章 諸地域世界の形成と交流 東アジア世界・内陸アジア世界 【中間考査】
	五 六	西アジア世界・ヨーロッパ世界 【期末考査】
第2学期	七 十	第2章 結びつく世界 アジアの諸帝国 【中間考査】
	十 十一	近世ヨーロッパの形成と発展 【期末考査】
第3学期	十二 二	第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 【期末考査】
	三	まとめ

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
日本史 A	2	特進文系・理系 コース	2	地歴

使用教科書等	出版社
日本史 A 現代からの歴史	山川出版社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代史を理解し、今日の日本の基盤を考察する。</li> <li>裏話やエピソードを交えて興味や関心を持たせる。</li> <li>時代背景を考えさせる。</li> </ul>
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物や出席状況、学習状況</li> <li>ノートの取り方、創意工夫</li> </ul>
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1章 国際環境の変化と明治維新</li> <li>1. 19世紀世界の動向と日本</li> <li>2. 開国と倒幕</li> </ul>
	5	
	5	
第2学期	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 開国と倒幕</li> <li>3. 明治新政府の諸改革と社会の変化</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>4. 明治初期の外交と反政府運動</li> </ul>
	10	
第3学期	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2章近代国家の成立と国際関係の推移</li> <li>1. 自由民権運動の展開</li> <li>2. 立憲体制の成立</li> <li>2. 立憲体制の成立</li> <li>3. 日清戦争と国際関係</li> </ul>
	2	
	3	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>期末考査</li> </ul>

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
政治・経済	2	普通 コース	2	地歴・公民
使用教科書等			出版社	
高等学校 改訂版 政治・経済			第一学習社	

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	民主主義の本質に関する理解を深めさせるとともに、現代における政治、経済、国際関係などについての客観的な理解をめざす。また、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を持つ良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事項や、その本質、特質及び動向を捉える基本的な概念を身につけているかどうかを年間5回の定期テストで判断する。	普段の授業に取り組む姿勢や提出物(ノート・課題プリント等)の内容、出欠席の状況などを総合的に判断し評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 ①経済社会の発展 ②経済社会と経済活動 ③市場経済の機能と限界
	5	【中間考査】 ④経済成長と景気変動 ⑤物価の動き ⑥金融のしくみとはたらき
	6	【期末考査】
第2学期	7	⑦財政のしくみとはたらき ⑧日本経済の歩み ⑨中小企業の地位と役割
	8	【中間考査】
	9	⑩農業の現状と課題 ⑪消費者問題 ⑫高度情報化社会の進展と課題他
第3学期	10	【期末考査】
	11	⑬労働問題 ⑭社会保障制度の充実 ⑮環境保全と資源・エネルギー問題
	12	第2章 国民経済と国際経済 ①国際経済のしくみ ②国際協調と国際経済機関の役割 ③地域的経済統合他
	1	【期末考査】
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
現代社会	2	進文・進理 コース	2	地歴・公民科

使用教科書等	出版社
現代社会	東京書籍

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	現代社会に対する関心を高め、諸問題について様々な立場を踏まえて主体的に学習できる能力を養うとともに、基礎的な知識の定着を図る。
---------	-----------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	学習した概念や理論を理解し、その知識が定着しているかどうかを定期考査の得点により評価する。	出席状況、授業態度、提出物などで判断する。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第2章 日本国憲法と民主政治 1. 民主政治とは 2. 日本国憲法の基本原理  【中間考査】 2. 日本国憲法の基本原理 3. 日本の政治機構 4. 現代政治の特質と課題
	5・6	【期末考査】
	7・9	4. 現代政治の特質と課題 第3章 現代社会と法 1. 現代社会と法  【中間考査】
第2学期	10・11	第4章 現代経済と国民福祉 3. 豊かな生活の実現  【期末考査】
	12・1	第5章 国際社会と人類の課題 1. 国際政治のしくみと動向 2. 国際経済のしくみと動向
第3学期	1・3	2. 国際経済のしくみと動向 3. 国際社会の現状と課題  【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
倫理	2	特文理 コース	2	地歴・公民科
使用教科書等			出版社	
『改訂版 倫理』			数研出版	

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	人間としての在り方生き方について思索を深めるとともに、主体的に学習できる能力を養い、基礎的な知識の定着を図る。
---------	---------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	学習した概念や理論を理解し、その知識が定着しているかどうかを定期考査の得点により評価する。	出席状況、授業態度、提出物などで判断する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4・5	第1編 現代に生きる自己の課題 第2編 第1章 西洋思想の源流 第1節 古代ギリシアの思想 【中間考査】
	5・6	第2節 キリスト教 第3節 イスラーム 【期末考査】
第2学期	7・9	第2章 東洋思想の源流 第1節 古代インドの思想と仏教 第2節 中国の思想 第3編 第1章 西洋近代の思想 第1節 理性への信頼と人間の尊厳 第2節 自然・科学技術と人間 第3節 個人・社会と自由 第4節 民主社会の倫理 【中間考査】
	10・11	第2章 現代の思想 第1節 現代思想の流れ 第2節 現代社会と生き方 第4編 第1章 日本の伝統思想と東洋思想の受容 第1節 日本の風土と古代日本人の考え方 第2節 仏教の需要と展開 【期末考査】
第3学期	12・1	第3節 儒学の需要と国学の発達 第2章 西洋思想の受容の近現代の日本の思想 第1節 近代の日本の思想 第2節 国際社会を生きる日本人
	1・3	第5編 現代の諸課題と倫理 【期末考査】

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	普通 コース	2	数学科

使用教科書等	出版社
改訂 新数学Ⅱ / ニューファースト 改訂 新数学Ⅱ	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。</li> <li>・ 問題集にて演習を行い、基礎力を養う。</li> </ul>
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期に中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の学習態度、プリント・課題等の提出物により総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	1章 方程式・式と証明 1節 整式・分数式の計算 1. 3次の乗法公式と因数分解    2. 二項定理    3. 分数式とその計算  【中間考査】 2節 2次方程式 1. 複素数    2. 2次方程式    3. 解と係数の関係  【期末考査】
	5	
	5	
	6	
	7	
第2学期	7	3節 高次方程式 1. 整式の除法    2. 因数定理    3. 高次方程式 4節 式と証明 1. 等式の証明    2. 不等式の証明 【中間考査】 2章 図形と方程式 1節 座標と直線の方程式 1. 直線上の点の座標    2. 平面上の点の座標    3. 直線の方程式  【期末考査】
	8	
	9	
	10	
	11	
第3学期	1	4. 2直線の関係 2節 円の方程式 1. 円の方程式 2. 円と直線 3節 不等式の表す領域 1. 不等式の表す領域 2. 連立不等式の表す領域  【期末考査】
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学A	2	普通コース	2	数学

使用教科書等	出版社
改訂 新数学A/ニューファースト 改訂 新数学A	東京書籍

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	場合の数と確率、図形の性質に整数の性質について理解し、基本的な知識と技能を習得する。事象を数学的に考察し、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を養う。
---------	------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期に中間考査・期末考査を実施し、その得点により評価を行う。	日常の学習態度、プリント・課題等の提出物により総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	1章 場合の数と確率
	5	1節 場合の数 1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 和の法則と積の法則
	5	【中間考査】 4. 順列 5. 順列の利用 6. 重複順列 7. 円順列 8. 組合せ 9. 組合せの利用
	6	【期末考査】
第2学期	7	2節 確率
	10	1. 確率の意味 2. 確率の計算 3. 独立な試行の確率 4. 反復試行の確率 5. 条件付き確率 【中間考査】
	10	2章 図形の性質
	11	1節 三角形の性質 1. 三角形と角 2. 三角形と比 3. 三角形の重心・外心・内心 4. 角の二等分線と線分の比 2節 円の性質 1. 円周角の定理 2. 円に内接する四角形 3. 円と直線 4. 接線と弦のつくる角 5. 方べきの定理 6. 2つの円 3節 作図 1. 基本の作図 2. いろいろな作図 4節 空間図形 1. 直線や平面の位置関係 2. 多面体 【期末考査】
第3学期	1	3章 整数の性質
	2	1節 約数と倍数 1. 約数と倍数 2. 最大公約数と最小公倍数 3. ユークリッドの互除法 2節 整数の性質の応用 1. 方程式の整数解 2. 分数と小数 3. 2進法
	3	課題学習 【期末考査】



科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	進学文系 コース	4	数学科

使用教科書等	出版社
改訂版 新編数学Ⅱ 改訂版 3TRIAL 数学Ⅱ+B	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各単元の基本的事項の内容の理解を深めると同時に、数学Ⅰ・Aとの関連性を確認しながら、校外模試に対応できる総合力を身につける。
---------	----------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的内容の理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	授業態度、ノート・プリント等、提出状況・学習内容の理解度をチェックして評価する。授業中の演習問題に対する取り組み方も評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 式と証明 第1節 式と計算  【中間考査】
	5 6	第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と方程式の解 第2節 高次方程式  【期末考査】
第2学期	7 9	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域  【中間考査】
	10 11	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数  【期末考査】
第3学期	1 2 3	第2節 対数関数  第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法  【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学B	2	進学文系 コース	3	数学

使用教科書等	出版社
新編数学B(改訂版)／3TRIAL数学B／完成ノート	数研出版

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念、公式を理解させる。</li> <li>問題集を繰り返し行い、基本的な計算力を身につけ、応用力を高める。</li> </ul>
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 【中間考査】 第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 $\Sigma$ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 第3節 数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法 【期末考査】
	5	
	5	
	5	
	6	
	6	
第2学期	7	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 【中間考査】 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示 【期末考査】
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
第3学期	1	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 1年間の学習の振り返り 【期末考査】
	2	
	2	
	3	
	3	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	進学理系 コース	5	数学科
使用教科書等			出版社	
新編 数学Ⅱ / 3TRIAL 数学Ⅱ+B			数研出版	

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各単元の基本的事項の内容の理解を深めると同時に、数学Ⅰ・Aとの関連性を確認しながら、校外模試に対応できる総合力を身につける。
---------	----------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業での基本的な学習内容に加えて、応用レベルへの問題に対する取り組みと理解度を確認する。また、一定時間内に解法する中で、正確に解答を導き出す能力が身につけているかを1、2学期に2回、3学期に1回のペーパーテストで評価する。	週末・長期休業中において、課題を課し、その提出状況・学習内容の理解度をチェックして評価する。授業中の演習問題に対する取り組み方も評価する。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	▽ 式と証明 ( 3次式の展開・因数分解 整式の割り算 分数式の計算 等式・不等式の証明 相加平均と相乗平均 )
	5	【中間考査】
	5 6 7	▽ 複素数と方程式 ( 虚数 2次方程式の解の種類 解と係数の関係 2数を解とする2次方程式 剰余の定理 因数定理 3次方程式の解の種類 ) ▽ 図形と方程式(1) ( 座標平面上の点 直線の方程式 点と直線の距離 ) 【期末考査】
第2学期	7 8 9	▽ 図形と方程式(2) ( 円の方程式 円と直線の位置関係 領域 軌跡 ) ▽ 三角関数 ( 角の拡張と弧度法 三角関数を含む方程式・不等式 加法定理 ) 【中間考査】
	10 11	▽ 指数関数と対数関数 ( 指数の拡張 累乗根 指数を含む方程式・不等式 対数と底・真数 対数を含む方程式・不等式 常用対数 ) 【期末考査】
	12	
第3学期	1 2 3	▽ 微分法と積分法 ( 極限值 導関数の定義 関数の微分 接線の方程式 極大・極小 3次関数のグラフ 方程式への応用 微分と積分の関係 不定積分 定積分 関数方程式 定積分と図形の面積 面積公式 ) 【期末考査】
	1 2 3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学B	2	進学理系 コース	3	数学

使用教科書等	出版社
新編数学B／3TRIAL数学B／完成ノート	数研出版

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念、公式を理解させる。</li> <li>問題集を繰り返し行い、基本的な計算力を身につけ、応用力を高める。</li> </ul>
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 5	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 【中間考査】
	5 5 6	第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示 【期末考査】
第2学期	7 7 1 0	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用
	1 0 5 1 1	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 【中間考査】
第3学期	1 2 5 1	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 $\Sigma$ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 第3節 数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法 【期末考査】
	2 5 3	1年間の学習の振り返り 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	特進文系 コース	4	数学

使用教科書等	出版社
数学Ⅱ改訂版／アドバンスプラス改訂版数学Ⅱ+B／Focus Gold数学Ⅱ+B	啓林館

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念、公式を十分に理解させる。</li> <li>問題集で計算力、応用力を高める。</li> <li>模試や入試に対応できる学力を養う。</li> </ul>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 式と証明・高次方程式 1年次で学習済 第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域 【中間考査】
	5 6	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数 第2節 三角関数の加法定理 【期末考査】
第2学期	7 8 9 10	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 第2節 対数と対数関数 【中間考査】
	1 0 1 1	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 【期末考査】
第3学期	1 2 3	第3節 積分 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学B	2	特進文系 コース	2	数学

使用教科書等	出版社
数学B(改訂版)/アドバンスプラスII+B/Focus Gold数学II+B	啓林館

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念、公式を十分に理解させる。</li> <li>問題集で計算力、応用力を高める。</li> <li>模試や入試に対応できる学力を養う。</li> </ul>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。学期毎に中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第1章 数列
	5	第1節 等差数列と等比数列
	5	1. 数列とその項 2. 等差数列 3. 等比数列 【中間考査】
	5	第2節 いろいろな数列
	5	1. 和の記号 $\Sigma$ 2. 累乗の和 3. 階差数列 4. 数列の和と一般項 5. いろいろな数列の和
	6	第3節 数学的帰納法 1. 漸化式 2. 数学的帰納法 【期末考査】
第2学期	7	第2章 平面上のベクトル
	8	第1節 ベクトルとその演算
	10	1. ベクトル 2. ベクトルの和・差・実数倍 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 【中間考査】
	11	第2節 ベクトルと図形
1	1. 位置ベクトル 2. 位置ベクトルと図形 3. ベクトル方程式 【中間考査】	
第3学期	1	第3章 空間のベクトル
	2	1. 空間の点の座標 2. 空間のベクトル 3. 空間ベクトルの内積 4. 位置ベクトル
	2	【期末考査】
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学Ⅱ	2	特進理系 コース	5	数学

使用教科書等	出版社
数学Ⅱ改訂版／アドバンスプラス改訂版数学Ⅱ+B／Focus Gold数学Ⅱ+B	啓林館

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念、公式を十分に理解させる。</li> <li>問題集で計算力、応用力を高める。</li> <li>模試や入試に対応できる学力を養う。</li> </ul>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確 認する。また、問題集や参考書にある応用的な 内容への取り組みとその理解度を確認する。 各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、 その得点で評価を行う。	日常の授業態度や小テストの出来具合、ノート 提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 式と証明・高次方程式 1年次で学習済 第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域 【中間考査】
	5 6	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数 第2節 三角関数の加法定理 【期末考査】
第2学期	7 8 9 10	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 第2節 対数と対数関数 【中間考査】
	1 0 1 1	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 【期末考査】
第3学期	1 2 3	第3節 積分 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
数学B	2	特理 コース	3	数学

使用教科書等	出版社
数学B改訂版／アドバンスプラス改訂版数学II+B／Focus Gold数学II+B	数研出版

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な概念、公式を十分に理解させる。</li> <li>問題集で計算力、応用力を高める。</li> <li>模試や入試に対応できる学力を養う。</li> </ul>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	授業で学習する基本的な内容の理解度を確認する。また、問題集や参考書にある応用的な内容への取り組みとその理解度を確認する。各学期ごとに中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。	日常の授業態度や課題の出来具合、ノート提出により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列 【中間考査】
	5 6	第1章 数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 【期末考査】
第2学期	7 8 9 10	第2章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形 【中間考査】
	10 11	第3章 空間座標とベクトル 第1節 空間のベクトル 【期末考査】
第3学期	1 2 3	数学Bの演習問題 【期末考査】



科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	普通 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 新化学基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(3学期は期末考査のみ実施)	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	序章 化学と人間生活 第I章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ①物質の分離(1) ②物質の分離(2) ③物質を構成する元素 ④元素の確認 【中間考査】
	5 6 7	⑤物質の三態 ⑥原子のなりたち ⑦同位体とその利用 ⑧原子の電子配置 ⑨元素の周期律と周期表 第2節 化学結合 ①イオン(1) ②イオン(2) ③イオン結合 ④イオンからできる物質 ⑤共有結合(1) ⑥共有結合(2) ⑦分子の極性 ⑧分子からできる物質(1) ⑨分子からできる物質(2) 【期末考査】
第2学期	7 8 9 10	⑩共有結合の結晶 ⑪金属結合と金属結晶 第II章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量 ③物質と粒子の数 ④物質と質量 ⑤物質と気体の体積 ⑥溶解と濃度 ⑦化学反応式(1) ⑧化学反応式(2) ⑨化学反応式の量的関係(1) ⑩化学反応式の量的関係(2) 【中間考査】
	1 0 1 2	第2節 酸と塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱と分類 ③水素イオン濃度とpH ④pHの測定 ⑤中和と塩 ⑥中和の量的関係 ⑦中和滴定とpHの変化 【期末考査】
第3学期	1 2 3	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化数 ③酸化剤と還元剤 ④金属のイオン化傾向 ⑤酸化還元反応の利用 ⑥電池 ⑦電気分解 【期末考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
理科演習	2	普通 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 改訂新物理基礎 高等学校 生物基礎	第一学習社 第一学習社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ科学的な見方や考え方を養う。 生物や生命現象にみられる色々な特性を取り上げ、これらを柱として生命を探究する態度を育てる。
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。(3学期は期末考査のみ実施)	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 5	物理基礎 第Ⅲ章 第1節 波の性質 ①波と振動 ②波の表し方 ③波の重ねあわせ ④定常波 ⑤波の反射  【中間考査】
	5 5 7	第Ⅲ章 第2節 音波 ①音の速さと3要素 ②波としての音の性質 ③弦の固有振動 ④気柱の固有振動  【期末考査】
第2学期	8 5 1 0	第3章 生物の体内環境 3. 体内環境の維持のしくみ 【中間考査】
	1 0 5 1 2	第4章 バイオームの多様性と分布 1. 生物の多様性とバイオーム 2. バイオームの形成過程 3. バイオームとその分布 【期末考査】
第3学期	1 5 2	第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 生態系のバランスと保全 3. 生態系の保全 【期末考査】
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	進学文系 コース	3	理科
使用教科書等			出版社	
改訂 高等学校 化学基礎			第一学習社	

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物質の性質や反応、あるいは構造を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する原理・法則を化学的に考察する能力と態度を身につける。
---------	--------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。[3学期は期末考査のみ実施]	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	序章 化学と人間生活
	5	第I章 物質の構成
	5	第1節 物質の成分と構成元素 ①物質の成分 ②物質の構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②元素の相互関係 【中 間考査】
	5 5 7	第3節 物質と化学結合 ①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶 ⑥分子からなる物質の利用 ⑦金属と金属結合 ⑧結晶の比較 【期末 考査】
第2学期	7	第II章 物質の変化
	7 5 1	第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学変化の量的関係 ⑥化学変化における諸法則 【中間 考査】
	1 0 5 1	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定 【期末 考査】
	1 2 5 3	第3節 酸化・還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の精錬 【期末 考査】

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物	2	進学文系 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 生物基礎／高等学校 生物	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	自然界の事象を、生物に関わる内容を理解することにより、理科的考察力を身につけ、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	----------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各期の考査によって、それぞれの学習範囲の理解度・知識力・考察力を評価を行う。	日頃の授業への出席状況や取り組む姿勢、ノートや課題等の提出物によって総合的に評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 5	第4章 バイオームの多様性と分布 1 生物の多様性とバイオーム      2 バイオームの形成過程      3 バイオームとその分布
	5 5 6	第5章 生態系とその保全 1 生態系      2 生態系のバランスと保全 【期末考査】
	第2学期	7 5 9
1 0 5 1 2		第2章 代謝 1 代謝とエネルギー代謝      2 同化      3 窒素同化      4 異化 【期末考査】
第3学期		1 5 2 3

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
物理	2	進理・特理 コース	3	理科

使用教科書等	出版社
高等学校理科用 物理	数研出版

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	自然の事象について関心や探求心を持ち科学的態度を身につけ、基本的概念や原理・法則を理解すると共に、科学的に判断する力を育む。
---------	----------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。3学期は期末考査のみ実施する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物のでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	第I編 第1章 平面内の運動 1. 平面運動の速度・加速度、 2. 落体の運動 第2章 剛体 1. 剛体にはたらく力のつりあい、 2. 剛体にはたらく力の合力と重心 【中間考査】
	5 6	第3章 運動量の保存 1. 運動量と力積、 2. 運動量保存則、 3. 反発係数 第4章 円運動と万有引力 1. 等速円運動、 2. 慣性力、 3. 単振動、 4. 万有引力 【期末考査】
第2学期	7 10	第II編 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則、 2. 気体分子の運動、 3. 気体の状態変化 第III編 第1章 波の伝わり方 1. 正弦波、 2. 波の伝わり方 第2章 音の伝わり方 1. 音の伝わり方、 2. 音のドップラー効果 第3章 光 1. 光の性質、 2. レンズ、 3. 光の干渉と回折 【中間考査】
	10 12	第IV編 第1章 電場 1. 静電気力、 2. 電場、 3. 電位、 4. 物質、 5. コンデンサー 第2章 電流 1. オームの法則、 2. 直流電流、 3. 半導体 第3章 電流と磁場 1. 磁場、 2. 電流のつくる磁場、 3. 電流が磁場から受ける力、 4. ローレンツ力 【期末考査】
第3学期	1 2	第4章 電磁誘導と電磁波 1. 電磁誘導の法則、 2. 交流の発生、 3. 自己誘導と相互誘導、 4. 交流回路 第V編 第1章 電子と光 1. 電子、 2. 光の粒子性、 3. X線、 4. 粒子の波動性 第2章 原子と原子核 1. 原子の構造とエネルギー準位、 2. 原子核、 3. 放射線とその性質、 4. 核反応と核エネルギー、 5. 素粒子 【期末考査】
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	進学理系 コース	4	理科
使用教科書等			出版社	
改訂 高等学校 化学基礎			第一学習社	

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物質の性質や反応、あるいは構造を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する原理・法則を化学的に考察する能力と態度を身につける。
---------	--------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。[3学期は期末考査のみ実施]	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	序章 化学と人間生活
	5	第I章 物質の構成
	5	第1節 物質の成分と構成元素 ①物質の成分 ②物質の構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②元素の相互関係 【中 間考査】
	5 5 7	第3節 物質と化学結合 ①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶 ⑥分子からなる物質の利用 ⑦金属と金属結合 ⑧結晶の比較 【期末 考査】
第2学期	7	第II章 物質の変化
	7 5 1	第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学変化の量的関係 ⑥化学変化における諸法則 【中間 考査】
	1 0 5 1	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定 【期末 考査】
	1 2 5 3	第3節 酸化・還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の精錬 ⑦電気分解 【期末



科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	特進文系 コース	3	理科

使用教科書等	出版社
改訂 高等学校 化学基礎	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物質の性質や反応、あるいは構造を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する原理・法則を化学的に考察する能力と態度を身につける。
---------	--------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。[3学期は期末考査のみ実施]	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	序章 化学と人間生活
	5	第I章 物質の構成
	5	第1節 物質の成分と構成元素 ①物質の成分 ②物質の構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②元素の相互関係 【中 間考査】
	5 5 7	第3節 物質と化学結合 ①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶 ⑥分子からなる物質の利用 ⑦金属と金属結合 ⑧結晶の比較 【期末 考査】
第2学期	7	第II章 物質の変化
	7 8 10	第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学変化の量的関係 ⑥化学変化における諸法則 【中間 考査】
	1 0 5 1 2	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定 【期末 考査】
	1 2 5 3	第3節 酸化・還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の精錬 ⑦電気分解 【期末



科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
生物	2	特進文系 コース	2	理科

使用教科書等	出版社
高等学校 生物基礎 / 高等学校 生物	第一学習社

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	生物や生物現象への関心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
---------	--------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各期の考査によって、それぞれの学習範囲の理解度・知識力・考察力を評価を行う。	日頃の授業への取組みや授業態度、課題等の提出物によって評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	第4章 バイオームの多様性と分布 2 バイオームの形成過程 3 バイオームとその分布
	5	第5章 生態系とその保全 1 生態系
	5	【中間考査】 2 生態系のバランスと保全 3 生態系の保全
	5	第1章 細胞と分子 1 生体物質と細胞
	5	1 生体物質と細胞
	6	【期末考査】
第2学期	7	2 細胞膜を介した物質の移動 3 生命現象とタンパク質
	5	第2章 代謝 1 代謝とエネルギー代謝 2 同化
	9	【中間考査】
	10	3 窒素同化 4 異化
	11	5 呼吸
	12	【期末考査】
第3学期	1	第3章 遺伝情報の発現 1 遺伝情報とその発現 2 遺伝子の発現調節
	2	【期末考査】 3 バイオテクノロジー
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
化学基礎	2	特進理系 コース	4	理科
使用教科書等			出版社	
改訂 高等学校 化学基礎			第一学習社	

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	物質の性質や反応、あるいは構造を調べることにより物質の特徴を理解し、物質に関する原理・法則を化学的に考察する能力と態度を身につける。
---------	--------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、中間考査、期末考査を実施し、その得点で評価を行う。[3学期は期末考査のみ実施]	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物の出来具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	序章 化学と人間生活
	5	第I章 物質の構成
	5	第1節 物質の成分と構成元素 ①物質の成分 ②物質の構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②元素の相互関係 【中 間考査】
	5 5 7	第3節 物質と化学結合 ①イオン ②イオン結合とイオン結晶 ③分子と共有結合 ④分子間の結合 ⑤共有結合の結晶 ⑥分子からなる物質の利用 ⑦金属と金属結合 ⑧結晶の比較 【期末 考査】
第2学期	7	第II章 物質の変化
	7 1 0	第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学変化の量的関係 ⑥化学変化における諸法則 【中間 考査】
	1 0 5 1 2	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定 【期末 考査】
	1 2 5 3	第3節 酸化・還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の精錬 ⑦電気分解 【期末



科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体 育	2男	普通 コース	3	保健体育科
使 用 教 科 書 等			出 版 社	
Active SPports 2017 [総合版]			大修館書店	

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は期末考査を実施する。	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト②・集団行動
	6	◇サッカー 2対2・3対3・ゲーム ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト① ◇陸上競技 走り幅跳び、砲丸投げ ●実技試験
	10	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
第3学期	1 2	◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) サーブ・スパイク・ゲーム ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	2学年(女)	普通コース	3	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2018 [総合版]	大修館書店

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子をを整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇ハンドボール パス・シュート・対人練習 ゲーム ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) サーブ・スパイク ゲーム ●実技試験
	11	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
第3学期	1	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
	2	◇体育理論 ◆期末考査
	3	

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体 育	2学年(男)	進学文・理系 コース	2	保健体育科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・集団行動
	6	◇サッカー 2対2・3対3・ゲーム ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト② ◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
	11	◇バスケットボール ドリブルシュート ゲーム ●実技試験
第3学期	1	◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) サーブ・スパイク
	2	ゲーム ●実技試験  ◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体 育	2女	進学文・理系 コース	2	保健体育科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は期末考査を実施する。	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト②・集団行動
	6	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト① ◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) サーブ・スパイク・ゲーム ●実技試験
	10	◇ハンドボール パス・シュート・対人 ゲーム ●実技試験
第3学期	1	◇バスケットボール パス・シュート 対人 ゲーム ●実技試験 ◇体育理論 ◆期末考査
	2	
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体育	2学年(男)	特進文・理系 コース	2	保健体育科

使用教科書等	出版社
Active SPports 2017 [総合版]	大修館書店

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	<p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子をを整え体力の向上を図る。</p> <p>公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。</p>
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は中間考査を実施	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト①・体づくり運動 ●実技試験(高校生体操)
	6	◇サッカー 2対2・3対3 実技理論(ルールと仕方) ●実技試験 ●ゲーム(チーム)
第2学期	7	◇スポーツテスト②・体づくり運動 ◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
	10	◇バスケットボール ドリブルシュート ●実技試験 ●ゲーム(チーム)
第3学期	12	◇バレーボール パス・サーブ・スパイク 実技理論(ルールと仕方) ●実技試験 ●ゲーム(チーム)
	3	◇体育理論(第2章) ◆期末考査



科目名	対 象		単位数	担当教科
	学年	コース		
体 育	2女	特進文・理系 コース	2	保健体育科

使 用 教 科 書 等	出 版 社
Active SPports 2018 [総合版]	大修館書店

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	運動技能	知識・理解	関心・意欲・態度
趣旨・基準	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高める。 体力向上のために運動の合理的な行い方を身に付ける。	運動の意義や必要性を理解する。 運動の特性と合理的な行い方を理解し、その知識を身に付ける。 3学期は期末考査を実施する。	計画的に、自ら進んで行うことで、運動の楽しさや喜びを味わう。 健康・安全に関心を持ち意欲的に取り組もうとする態度を養う。
評価割合	約50%	約30%	約20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	◇オリエンテーション ◇スポーツテスト②・集団行動
	6	◇陸上競技 ハードル走 砲丸投げ ●実技試験
第2学期	7	◇体づくり運動 ◇スポーツテスト① ◇バレーボール パス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) サーブ・スパイク・ゲーム ●実技試験
	10	◇ハンドボール パス・シュート・対人 ゲーム ●実技試験
第3学期	12	◇バスケットボール パス・シュート 対人 ゲーム ●実技試験
	3	◇体育理論 ◆期末考査

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
音楽Ⅱ	2	普通 コース	2	芸術

使用教科書等	出版社
改訂版 高校生の音楽2	音楽之友社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	音楽の諸活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
---------	-----------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・音楽上の幅広いジャンルに対して興味関心を高めているか。 ・主体的に楽曲演奏に取り組んでいるか。 ・演奏活動への参加の仕方や態度	・楽曲、ジャンルの特質を知覚し、音楽のよさ、美しさを個性豊かに表現の工夫をしているか。 ・実技テストの内容・演奏発表の内容	楽曲から感じ取ったイメージを個性豊かに表現できているか。 ・実技テストの内容 ・演奏発表の内容	・多様な音楽や音楽文化に対する理解を深め鑑賞できているか。 ・レポートの内容 ・演奏発表の内容
評価割合	20%	30%	30%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5 6	歌唱・・・自然を歌う、ポピュラーソング。器楽・・・リコーダーソロ、2重奏 鑑賞・・・ウェストサイドストーリーについて 楽典・・・①
	7 8 9 10 11	歌唱・・・愛を歌う、世界の民謡 器楽・・・リコーダーソロ、アンサンブル 鑑賞・・・世界の音楽 楽典・・・②
	1 2 3	歌唱・・・合唱 器楽・・・リコーダーアンサンブル 鑑賞・・・日本、世界の音楽

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
美術2	2	普通 コース	2	芸術

使用教科書等	出版社
高校美術2(116-日文・美Ⅱ-302)	日本文教出版

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	美術の様々な活動を通して、美術を楽しむ愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化について理解を深め、個性豊かな表現技能と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
---------	--------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・美術のあらゆるジャンルに対して興味・関心を高めているか。 ・主体的に、意欲的に制作活動に取り組んでいるか。	・制作しようとしているジャンルの特質を理解し、美術のよさ・美しさを、個性豊かに表現の工夫をしているか。 ・提出した作品で評価	・制作しようとしているジャンルの特質を理解し、個性豊かに表現する技能をもって制作に取り組んでいるか。 ・提出した作品で評価	・様々な美術作品や美術文化に対する理解を深めて鑑賞できているか。 ・レポート内容を参照
評価割合	20%	30%	30%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 5	・ミーティング ・自画像(鉛筆デッサン)
	5 6	・鑑賞 ・自画像(鉛筆デッサン)  ・風景画
	7 8 9 10 11 12	・鑑賞 ・立体造形の基礎  ・様々な素材を使った立体表現 ・スタンドグラス
第3学期	1 2 3	・砂絵
	4 5	・鑑賞
	6 7 8	・デザイン・環境(社会)との関わり

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
書道Ⅱ	2	普通 コース	2	芸術科
使用教科書等			出版社	
書道Ⅱ			東京書籍	

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	書道の幅広い活動を通して、書道を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし書道文化についての理解を深め、様々な場面に対応できる書写能力を養い個性豊かな表現と創作の能力を高める。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

項目	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
趣旨・基準	・書道文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に取り組んでいるか。 ・関心意欲は作品の添削と提出状況、態度は出席状況、マナーで評価	・芸術書道の良さ、美しさを個性豊かに表現の工夫をしているか。 ・感受性や表現は提出した作品で評価	・創造的な表現をするための技能を身につけているか。 ・古典作品に対して特徴をとらえた技能で表現できていたか。作品によって評価	・書道を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。 ・作者の作品を理解しているか。授業中の発言等によって評価
評価割合	20%	30%	30%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	漢字の書(楷書)臨書
	5	1. 張猛龍碑 2. 薦季直表 3. 始平公造像記 4. 賢愚經
	6	漢字の書(行書) 1. 集王聖教序(王羲之)
第2学期	7	漢字の書(行書) 1. 李柏尺牘稿 2. 蜀素帖
	8	3. 文化祭作品創作(協同制作)
	9	漢字の書(草書)
	10	書譜. 十七帖. 自叙帖
	11	硬筆の学習 漢字の書(隸書・篆書) 競書大会作品
第3学期	12	生活の中の書(実用書) 創作の学習
	1	1. 書初め作品
	2	仮名の書(散らし書き) 刻字の学習(篆刻)
3	漢字仮名交じりの書 1. 創作(色紙)	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	2	普通 コース	2	英語科

使用教科書等	出版社
VISTA English communication II New Edition	三省堂

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	-------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	Lesson 1 Birthdays , Here and there
	5	
	5	Lesson 2 The Emerald Isle
第2学期	6	
	7	Lesson 3 The Sagrade Familia
	9	
	10	Lesson 4 Nobel Prize Episodes
第3学期	11	
	12	Lesson 5 Flowers in the Tomb
	3	

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現Ⅱ	2	普通 コース	2	英語

使用教科書等	出版社
Vivid II English Expression New Edition	第一学習社

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	-------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4 ~ 5	Lesson7 Studying Is Fun!
	5 ~ 7	Lesson10 Memories of My Best Trip Lesson11 Reading English Newspapers
第2学期	7 ~ 10	Lesson12 What Has Made You So Excited ? Lesson13 Run , Melos ! Lesson14 How Was Your Vacation ?
	10 ~ 12	Lesson15 Thinking More about the Earth Lesson16 History Is Interesting Lesson17 Making the World a Better Place
第3学期	1 ~ 2  3	Lesson18 Family Camping Lesson19 Hospital Robots Lesson 20 My Future Career

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	2	進学文・理系 コース	4	英語科

使用教科書等	出版社
Grove English Communication II New Edition	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	-------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストのでき具合により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4月 5月	Lesson 1 Mt. Fuji: The pride of Japan
	5月 7月	Lesson 2 Yes, I Do Climb Ashima Shiraiishi Lesson 3 A Penguin Called Happy Feet
	7月 9月	Lesson 4 Warka Water Lesson 5 Ahidden History of Tomatoes
第2学期	10月 12月	Lesson 6 Iceland Lesson 7 Which Jam Would You Like?
	1月 2月 3月	Lesson 8 Paper Buildings Lesson 9 Lunch Delivery in Munbai Lesson 10 Saving Wildlife from Global Warming

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現Ⅱ	2	進学文・理系 コース	3	英語科

使用教科書等	出版社
Vision Quest English Expression II Ace	啓林館

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	原則として、各学期に中間・期末考査を実施し、総合的な英語力を確認し評価する。	授業中の小テスト、プリント・ノート・課題等の提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期	4	Part1 Lesson 1 Lesson 2
	5	中間考査
	5	Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6
	6	期末考査
第2学期	7	Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10
	8	中間考査
	10	Lesson11 Lesson12 Lesson13
	11	期末考査
第3学期	1	Lesson 14
	3	Lesson15



科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
コミュニケーション英語Ⅱ	2	特進文・理系 コース	4	英語

使用教科書等	出版社
Grove English Communication Ⅱ	文英堂

1. 学習の重点目標

学習の重点目標	①コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。 ②情報や考えを的確に理解する。 ③自分の意見や考えを適切に表現する。
---------	-------------------------------------------------------------------

2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。	日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストの結果、プレゼンテーション(発表)により評価を行う。
評価割合	80%	20%

3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		Lesson1 Mt. Fuji: The Pride of Japan Lesson2 Yes, I Do Climb
		Lesson3 A Penguin Called Happy Feet Lesson4 Warka Water
第2学期		Lesson5 A Hidden History of Tomatoes Lesson6 Iceland
		Lesson7 Which Jam Would You Like? Lesson8 Paper Buildings
第3学期		Lesson9 Lunch Delivery
		Lesson10 Saving Wildlife from Global Warming

科目名	対象		単位数	担当教科
	学年	コース		
英語表現 II	2	特進文・理系 コース	3	英語科

使用教科書等	出版社
DUALSCOPE English Expression II	啓林館

### 1. 学習の重点目標

学習の重点目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------

### 2. 評価の観点の趣旨、評価基準、評価割合

	定期考査	平常点
趣旨・基準	原則として、各学期に中間・期末考査を実施し、総合的な英語力を確認し評価する。	授業中の小テスト、プリント・ノート・課題等の提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価する。
評価割合	80%	20%

### 3. 学習計画等

期間	月	学 習 内 容
第1学期		<Staget 1> Unit 1 Unit 2
		Unit 3 Unit 4 Unit 5 Unit 6
第2学期		Unit 7 Unit 8 Unit 9 Unit 10 Unit 11 Unit 12 Unit 13
		<Staget 2> Unit 14 Unit 15
第3学期		Unit 16 Unit 17
		Unit 18